

令和6年度 学校経営計画・学校評価			□4月4日提出		□10月3日提出		☑3月14日提出		学校番号 22		高知北		高等学校		課程 多(夜)	
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備				学校関係者評価								
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ 高校を卒業したいという強い意志をもった生徒。 ○ 自分らしく学び、高校生活を送ることで成長したいという思いをもった生徒。 ○ これまでの自分と違う新しいことにチャレンジしたいと願う生徒。 ○ 多様な背景をもった一人一人の違いを認め、ともに成長しようとする生徒。			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○ 共通講座・特別講座を受講することで学びの幅を広げる。 ○ 通信制や高卒認定試験等を活用することで3年間での卒業が可能となる。 ○ 若者サポートステーションを活用し、生徒の進路意識の醸成を図る。 ○ ハートフルドア事業を活用し、教育・医療・福祉の視点から生徒の成長を支援する。 ○ 生徒会活動や学校行事、他校との交流により生徒自ら主体的に考え、判断し、行動する場面を設定する。				【学力の向上】 評価 【 A 】 ・学校評価アンケートの「教員は分かりやすい授業に努めているか」の質問項目に対する生徒・保護者の肯定的回答が非常に高く、満足している様子がうかがえる。 ・授業自己チェックシートの結果をもとに、授業改善に向けた検証改善サイクルが確立されている。また、生徒の学力保障においては、ICTの活用も定着してきており、生徒の実態に応じて、丁寧な取組が行われている。 ・勉強の仕方が分からず、つまずいている生徒、学び直しを求める生徒をフォローする場があれば良いと思う。一方で、基礎学力がある生徒のやる気を引き出す手立てもあれば良いと思う。								
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 他者の生き方を認め、自分自身の存在を前向きにとらえようとする心を育てる。 ○ 社会で自立して生きるために必要となる基礎学力を育成する。 ○ 社会生活に必要な社会人としての基礎力・社会性・コミュニケーション力を育てる。 ○ 最後まであきらめず、チャレンジする気持ちを育てる。							【社会性の育成】 評価 【 B 】 ・生徒にとって、「社会性」そのものが多様化している状況の中で、取組の方向性が明確になっているので、成果として現れる時期も近いのではないかとと思う。 ・総合的な探究の時間や体験活動、学校行事等を通じて、他者との関わり合いの中で、生徒が主体的に考え、判断し、行動する場を意図的に設けるなど、生徒の社会性を育む取組が目標達成に迫っている。 ・単位制のため、クラスや学年で友人と交流する機会が少ないので、皆で楽しめる機会がもっとあると良いと思う。同年代の友人から感じること、学ぶことが社会性を育成することにつながると思う。								
								【チーム学校】 評価 【 A 】 ・魅力ある学校づくりのために、進路保障、個別支援、教育相談に組織として力を入れている。また、働き方改革も進み、教職員の長時間勤務が解消されている。 ・進路保障に向けた相談支援、通級による指導を通じた個別支援の実施、早期からの外部機関との連携や専門家の助言などを通して取組の効果が見られる。スクールポリシーの具現化に向けて、これまでの取組の継続と更なる充実を期待する。 ・保育園や地域との交流はとても良いことであり、日常の中で挨拶を意識し行うことも大切だと思う。保護者も加わって、全体で学校を盛り上げ、あたたかい学校づくりができれば願っている。								

					(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分					
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○思考力、判断力、表現力を高める授業づくり ○学びに向かう力の育成 ○将来のための勉強をしている生徒の増加	○少人数の授業を活用した細かな指導を行い、分かる授業を推進する。 ○中退防止に向けた取組(外部関係機関との連携した個別面談実施) ○授業規律について、情報機器の無断使用禁止、ベル着、遅刻・早退・中抜けの防止等辛抱強く指導して行く。 ○生徒の学力の向上に効果的に働くよう、授業にICTを活用する。	B	○中途退学者は2名(9月末時点)である。 ○サボステとはしっかりと連携ができている。 ○概ね授業規律は確保されている。 ○ICT機器の活用はほぼ定着できている。	○欠席・遅刻の多い生徒には、積極的に声掛けをするなど改善が図れるように促す。 ○ICT活用率は高くなっているの で、より一層一人一台端末の活用を進める。 ○学校が楽しいと感じている生徒がほとんどなので、出席率向上や授業改善を進める。	B	○中途退学者8名(3/10現在)。 ○在籍生徒についてはサボステとの連携はできているが、中途退学の生徒の中に十分な連携が取れなかったケースがあった。 ○県オリジナルアンケート「将来のための勉強をしている生徒」肯定回答92%。 ○ICT機器の活用はほぼ定着できている。	○不登校を経験している生徒が多く、特に入学年度の中途退学を防ぐ手立てが必要。 ○学校生活アンケート学校が楽しいと回答している生徒が多いので、引き続き授業改善を進める。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○学校行事を通した基本的生活習慣の確立と仲間づくりの推進(各行事の参加率を80%以上とする。) ○卒業年次生の卒業率100%にする。(R5:91.7%) ○進路決定率100%にする。(R5:100%)	○県体育大会、文化祭、生徒生活体験発表会等の行事を通じた仲間づくりを推進する。 ○キャリアパスポートを実施、自己目標を確立することや行事や講演の感想等を記録し、学習記録としてまとめ振り返りを行う。 ○進路学習を通じて生きる力を育成する。 ○教員が日頃から生徒に声掛けを積極的に行い、問題の発生の予防を行う。	B	○新入生歓迎ホームマッチなど、ほぼ全校生徒が参加しており、行事の参加率は非常に高い。 ○卒業年次生のうち、授業の出席状況が良くなり、卒業見込みが立っていない生徒が1名いる。引き続き卒業に向けて指導をしていく。 ○卒業予定者6名のうち就職希望が1名、進学希望が1名となっている。	○今後、文化祭や生徒生活体験発表会などが行われるため、仲間づくりに活用をする。 ○計画的な進路学習を進めており、引き続いて社会性の育成に努めていく。	B	○学校行事にはほぼ全校生徒が参加しており、行事の参加率は非常に高く、生徒の満足度も高い。 ○卒業年次の卒業率100%。 ○進路決定率は50%(3/10現在)であるが、未決定者も進路決定に向け継続して取り組んでいる。	○引き続き学校行事を中心に仲間づくりを進める。 ○卒業学年であっても安易に学校を休む生徒が多い。地道な指導が必要。
	取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○コロナ禍においては、地域との交流が無くなっていた。 ○県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答60%以上にする。	A	○文化祭(11月)、防災講演会(12月)に向け準備中である。 ○石立保育園との連携は家庭科を中心にできている。	○これまでの活動を継続して行う。	A	○文化祭などの学校行事に生徒が積極的に参加した。また、生徒会を中心に避難所開設訓練に参加し、地域とのつながりでもでき始めている。 ○県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答73%。	○これまでの取組を続け、生徒会を中心に地域行事への参加を進める。
		教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けれる力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した回数:各教科学期に1回以上 ○「総合的な探究の時間」の成果物のうち、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結びつけている成果物の割合50%以上とする。	○各教科において、ICT機器を積極的に活用する。 ○自分の言葉で表現できる生徒を育成する。 ○「総合的な探究の時間」では、生徒が成果を発表する場面を設ける。	B	○各教科において、ICT機器を活用する場面は増えているが、情報活用能力の育成にまでつながっていない。 ○「総合的な探究の時間」では、各学年で取り組みを進めている。	○ICT機器を単なる提示装置や検索ツールでとどめるのではなく、活用するための取組を教員間で確認する。	B	○DXハイスクールなどの取組を進めているものの、各教科の活動において生徒個々の情報活用能力の育成までつながっていない。 ○県オリジナルアンケート「高校入学以降の学習で、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があった」肯定的回答59%。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○学力向上・進路保障 ○生徒会活動の活性化	○進路決定率100%にする。(R5:100%) ○リーダー研修の実施	○年間を通した進路学習・体験学習の充実を図る。 ○若者サポートステーション等の関係各機関との連携を行う。 ○生徒会活動の充実(文化祭等の学校行事)	B	○粘り強い指導を行っているが、出席時数不足のため卒業見込みが立たない生徒がいる。 ○姉妹校の岡山県立鳥城高校生徒会、昼間部生徒会と夜間部の生徒会が集まり、岡山県にてリーダー研修を行うことができた。	B	○生徒の特性に配慮しつつ、次年度も引き続いて進路学習や若者サポートステーションとの連携を進める。 ○学校行事等における生徒会の担う役割が増えている。引き続き活性化に向けて取り組む。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○不祥事防止の徹底と、ハラスメントに関する研修を行う必要がある。 ○校内研修の実施 ○不祥事防止委員会の実施	○校内研修は、学期に1回実施する。 ○不祥事防止委員会は、月に1回程度の、年間10回以上実施する。	A	○1学期に校内研修を2回実施。 ○運営委員会にあわせて、不祥事防止委員会を実施。	A	○各学期に校内研修を1回以上実施。 ○運営委員会にあわせて、不祥事防止委員会を実施。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○校務の効率化を図り、勤務時間を超えないように効果的な教育活動を行う。	○働きやすい職場づくりを行う。 ○職員の時間外勤務を月45時間以内を厳守する。 ○ICTを活用する。	○ICT活用の研修を実施して、教員がICTを使って効率的に校務が遂行できるようにする。校内で研修を行う。 ○各分掌で業務の内容を点検して、業務の精選・見直しを行う。	B	○ICTについてはDXの指定を受け、全体で取り組んでいくための準備段階にとどまっている。 ○時間外勤務については定期的に管理職が確認をしているが、基本的には各自がしっかりと自己管理できている。	B	○教員の時間外勤務は一人当たり月平均4時間40分(2月末現在)。 ○ICT機器については、多くの教員が積極的に活用している。また、教員同士が、相談をしながら活用している場面も見られる。